

平成23年第1回竹原市議会定例会会議録

平成23年3月8日開議

(平成23年3月8日)

議席順	氏 名	出 欠
1	山 元 経 穂	出 席
2	高 重 洋 介	出 席
3	井 上 美 津 子	出 席
4	山 村 道 信	出 席
5	大 川 弘 雄	出 席
6	道 法 知 江	出 席
7	宮 原 忠 行	出 席
8	片 山 和 昭	出 席
9	北 元 豊	出 席
10	稲 田 雅 士	出 席
11	松 本 進	出 席
12	吉 田 基	出 席
13	脇 本 茂 紀	出 席
14	小 坂 智 徳	出 席

職務のため議場に参加した者は、下記のとおりである

議会事務局長 宮 地 憲 二

議会事務局係長 笹 原 章 弘

説明のため議場に出席した者は、下記のとおりである

職 名	氏 名	出 欠
市 長	小 坂 政 司	出 席
副 市 長	三 好 晶 伸	出 席
教 育 長	前 原 直 樹	出 席
総 務 部 長	今 榮 敏 彦	出 席
総 務 課 長	桶 本 哲 也	出 席
情 報 化 推 進 室 長	平 田 康 宏	出 席
企 画 政 策 課 長	豊 田 義 政	出 席
財 政 課 長	塚 原 一 俊	出 席
税 務 課 長	久 重 雅 昭	出 席
会 計 管 理 者	大 下 建 宗	出 席
監 査 委 員 事 務 局 長	堀 川 豊 正	出 席
選 管 ・ 事 務 局 長	桶 本 哲 也	出 席
市 民 生 活 部 長	中 沖 明	出 席
市 民 健 康 課 長	森 野 隆 典	出 席
ま ち づ く り 推 進 課 長	大 澤 次 朗	出 席
文 化 生 涯 学 習 室 長	西 口 広 崇	出 席
忠 海 支 所 長	森 野 隆 典	出 席
人 権 推 進 室 長	中 沖 明	出 席
福 祉 課 長	大 宮 庄 三	出 席
子 ども 福 祉 室 長	井 上 光 由	出 席
建 設 産 業 部 長	谷 岡 亨	出 席
産 業 振 興 課 長	中 川 隆 二	出 席
観 光 交 流 室 長	堀 信 正 純	出 席
建 設 課 長	柏 本 浩 明	出 席
都 市 整 備 課 長	有 本 圭 司	出 席
区 画 整 理 室 長	山 元 立 志	出 席
下 水 道 課 長	大 田 哲 也	出 席
農 業 委 員 会 事 務 局 長	西 原 正 教	出 席
教 育 委 員 会 教 育 次 長	新 谷 寿 康	出 席
教 育 委 員 会 学 校 教 育 課 長	亀 井 伸 幸	出 席
教 育 委 員 会 教 育 振 興 課 長	新 谷 寿 康	出 席
水 道 課 長	前 本 憲 男	出 席

付議事件は下記のとおりである

日程第25 一般質問

午前10時00分 開議

議長（脇本茂紀君） おはようございます。

ただいまの出席議員は14名であります。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

きのうに引き続き一般質問を行います。

質問順位9番、井上美津子さんの登壇を許します。

3番（井上美津子君） おはようございます。

ただいま議長より登壇を許されましたので、通告書に従い、一般質問をさせていただきます。民政同志会井上美津子でございます。よろしくお願いいたします。

広島県には、宮島、鞆の浦などたくさんの観光地があります。しかし、現在広島県は観光客の宿泊が少なく、宿泊は山口県の湯田や愛媛県の道後で、通り道となっております。我が竹原市も、宿泊も食事も少なく、見るだけの素通り状態です。観光客の皆さんに竹原で少しでも長い時間滞在していただくと、広島県内で宿泊になることが可能になると思います。そのための起爆剤となるべき道の駅たけはらについて質問させていただきます。

議員になって初めての一般質問ですので、まずどういう思いで道の駅をつくられたか、市長にお伺いいたします。

市街地の中心にある新しい形の道の駅として開業して半年、いろいろ努力されていることに敬意を表します。道の駅たけはらのオープンからの運営状況をお伺いいたします。

次に、道の駅たけはらが、町並み保存地区のゲートエリアとしての果たす役割は何か、また道の駅がオープンして町並み保存地区がどう変わってきているか、お伺いいたします。

次に、道の駅の役割として、地産地消、地域の特産品の広報、販売もあると思いますが、生産者や企業、JAなどの連携はどうなっているのか、お伺いいたします。

次に、道の駅の訪問者に対してのおもてなしの心とは何か、またどう生かされているかをお伺いいたします。

最後に、道の駅や町並み保存地区を含めた滞在型の旅行日程を多くの観光客の皆さんに取り入れていただくため、本市の滞在型（宿泊）への取り組みをお伺いいたします。

以上、私の壇上での質問を終わります。

議長（脇本茂紀君） 順次答弁を願います。

市長、答弁。

市長（小坂政司君） 井上議員の質問にお答えをいたします。

道の駅建設に至った経緯ではありますが、平成16年10月に主要地方道三原竹原線道路改良工事に伴い竹原警察署が移転し、その跡地が市の中心部で広大な土地であることから、平成17年6月には周辺自治会より跡地を地域コミュニティーの中核施設用地として確保を求める要望が出されました。このため、まず関係する一般国道185号の管理者である国土交通省と本市で道の駅を整備する基本構想を策定した後に、ワークショップや地元自治会との懇談会を通じ、広く市民などの御意見をいただきながら事業着手し、国、県や地元関係者など多くの方々の御理解と御協力により、昨年10月23日のオープンにつながったものであります。

この道の駅たけはらは、情報発信、交流促進、にぎわい創出の拠点であると同時に、防災機能を有した市民の安全・安心の拠点として、休憩スペース、トイレ、駐車場など基本的な施設のほか、道路情報、地域情報の提供、地域産品などを活用した飲食や物販活動、産品開発などの促進、市内及び近隣地域の観光情報への受発信、屋内、屋外の交流スペースなどを活用した定期的なイベント開催、地域コミュニティーへの対応など、多くの役割を担っているところであります。

次に、道の駅オープン後の運営状況につきましては、レジ通過者で、10月期約8,000人、11月期約1万5,000人、12月期約1万1,000人、1月期約8,000人であり、売上状況は、10月期約860万円、11月期約1,900万円、12月期約1,560万円、1月期約1,050万円となっております。

次に、道の駅たけはら、町並み保存地区のゲートエリアとして担う役割は、国道や公共交通などからの誘導や町並み保存地区など周辺地域の観光インフォメーションの機能充実であり、このため情報受発信機能の強化を図っていくことにあると考えております。

また、道の駅オープン後に町並み保存地区を含めた周辺観光案内を掲載したパンフレットや観光情報を来訪者が利用されている状況から、町並み保存地区を目的とした観光客についても、道の駅へも立ち寄られているところであります。

次に、道の駅を販路として地元生産者や企業、JAなどから産品提供の御協力をいただいておりますが、野菜などの生鮮産品については、季節要因なども絡んで、その出荷量の変動が大きい時期もあることから、引き続き生産者等への働きかけを行っていくとともに、地域ブランド開発など、新たな産品開発の取り組みを進め、一層の連携強化を図りながら、商品の充実に努めてまいりたいと考えております。

また、人も資源という視点に立ち、観光協会など関係団体と連携して、啓発活動の推進や研修などを通じ、訪れた人が温かい気持ちになれるよう、道の駅たけはらへの来訪者が、また訪れてみたいと感じるような心のこもったおもてなし、いわゆる接遇の向上を図っているところであります。

道の駅や町並み保存地区を含めた滞在型旅行につきましては、大久野島や湯坂温泉郷などに宿泊した観光客が、道の駅を経由して町並み保存地区を散策していただいている状況があることから、本市といたしましても、広報やホームページなどの充実などによる継続した情報発信、情報提供を行っていくとともに、商工会議所、観光協会など、各関係団体との緊密な連携や情報の共有化を図る中で、交流人口の拡大、観光振興や産業振興など、地域の活性化につなげてまいりたいと考えております。

以上、答弁といたします。

議長（脇本茂紀君） 3番。

3番（井上美津子君） 昨日、同僚議員の一般質問で同じような御答弁をいただいておりますが、私なりの視点で再質問をさせていただきます。

まず、売り上げ、来訪者は多いようです。

まだオープンして半年ですが、民間では、採算が合わない、すなわち赤字では倒産という形になります。道の駅は市の直営店ですから、今後赤字になると市民の皆さんからいただいた税金で補てんしなければなりません。道の駅で働いている人たちの人件費や維持費などの支出はどうなっていますか。当初の試算どおりの推移をしているのでしょうか、お伺いいたします。

議長（脇本茂紀君） 観光交流室長、答弁。

観光交流室長（堀信正純君） 失礼いたします。

まず、道の駅たけはらについてでございますけれども、道の駅たけはらは、道路利用者への休憩や観光情報の提供、有事の際の防災拠点などの公益的機能に加えまして、観光客の利便性の向上及び地域内産品等を市内外の利用者、消費者への販売を通じ、産品の生産拡大、換金化を促進する収益的機能の提供に地域産業の振興を図ることを基本としているものでございます。

施設につきましては、トイレ、駐車場のほか、休憩や道路情報を提供する公益的スペースと飲食、地域特産品などの物販事業を行う収益的スペースに分かれておりまして、道の駅としての条件である公益的スペースにつきましては、24時間の開放となっているもの

でございます。

レストランや売店などの収益的スペースにつきましても、民間活力による指定管理者制度を平成24年度から導入を予定しておりますけれども、それまでの間、市と商工会議所を中心に設置した協議会で事業運営計画を策定しまして、売り上げや施設利用状況など、基礎的なデータ収集を行う中で、組織体制や物販事業のあるべき姿など、総合的な管理体系を次の管理者に引き継がせるということにしております。

そこで、道の駅たけはらの売り上げでありますとか来場者の試算につきましては、当初年間10万人の来客数と、年間売り上げでは1億6,000万円を試算目標としていたものでございます。現在のところであれば、おおむねその目標についてクリアをできているものというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

議長（脇本茂紀君） 3番。

マイクを入れてください。

3番（井上美津子君） 道の駅で、今年間10万人、1年間で1億6,000万円という売り上げを見込んでおるということで、今からその売り上げを達成する、また上げていくためには、いろんなイベントを考えていらっしゃると思います。今後、どのようなイベントをお考えなのでしょうか。定期的にと、回答にも、答弁のほうにもありましたが、お伺いいたします。

議長（脇本茂紀君） 観光交流室長、答弁。

観光交流室長（堀信正純君） 定期的なイベントということでございますけれども、2番議員さんの答弁でも申し上げましたとおり、季節的なイベントでございますとか、道の駅独自のイベント、あるいは現在におきましても、イベントスペースにおいて特に3月におきましては、土日、週末等につきまして出店等ございますので、そういうところを踏まえまして、今後も地域の活性化につなげてまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

議長（脇本茂紀君） 3番。

3番（井上美津子君） 濟いませぬ。内容は、どんなものなんでしょうか、お伺いいたします。

議長（脇本茂紀君） 観光交流室長、答弁。

観光交流室長（堀信正純君） イベントの内容でございますけれども、基本的には季節的なもの、例えばブドウであれば、ブドウの出荷時期にそういうイベント開催をしますとか、今でありましたら、ミカンの時期であればミカンの、そういう季節フェアというような形のものを実施するでありますとかというようなことを今後検討していきたいというふうに考えているものでございます。

議長（脇本茂紀君） 3番。

3番（井上美津子君） ちょっと私の質問が意味をなしてなかったんかもしれないんですけども、イベントはいろいろと計画されているようなんですけども、そのイベントの情報を観光客の皆さんでだけではなく、地域住民の皆さんにも情報発信していただけたらと思うんですけども、現在情報発信としてどんなことをされてますか。また、今後どういう情報発信の方法でされるのか、お伺いいたします。

議長（脇本茂紀君） 観光交流室長、答弁。

観光交流室長（堀信正純君） 現在の情報提供ということでございますけれども、現在は行っているところにつきましては、施設におきましての掲示でありますとか、あとはホームページ、あるいはプレスリリースなどによって広報、啓発しているところでございます。

今後におきましても、引き続きこういった取り組みを継続して実施していきたいというふうに考えているところでございます。

議長（脇本茂紀君） 3番。

3番（井上美津子君） ホームページなどをということなんですけども、本当に私たちにわかるように示していただきたいと思います。

また、地域の人たちもそこへ集ってくるという形がかなりとれると思いますので、本当に情報発信としては大切なことだと思いますので、よろしくお伺いいたします。

次に、市街地にあります道の駅になると、アクセスがわかりやすいというふうに思われがちなんですけども、いろんな方から、国道側から見ても、道の駅とわかりにくい建物ですと言われます。竹原駅から、また国道2号線から、道の駅への道案内や道の駅の建物自体の看板など表示は今どうなってますか。また、今後道の駅へ行くためのアクセスがわかりやすくするための表示の改善、見直しについてのお考えをお伺いいたします。

議長（脇本茂紀君） 観光交流室長、答弁。

観光交流室長（堀信正純君） 道の駅の案内表示について、周辺からの国道などからわか

りづらいというような形の御意見でございますけれども、まず案内表示についての御質問でございますけれども、このたび案内表示につきましては、道の駅たけはらの表示案内板を建物南側上部壁面に2月下旬に設置をいたしたところでございます。

また、道の駅たけはらへの誘導看板の整備につきましては、国道185号、国道2号、国道432号の既設看板等への案内板の増設でありますとか、新規設置を今年度中に行うこととしております。場所としては、約7カ所程度を今考えているところでございます。よろしく願いいたします。

議長（脇本茂紀君） 3番。

3番（井上美津子君） 国道のほうからは、アクセスはわかるように表示を改善されるということなんですけども、駅のほうからはいかがなものでしょうか、お伺いいたします。

議長（脇本茂紀君） 観光交流室長、答弁。

観光交流室長（堀信正純君） 駅からの誘導につきましても、この取り組みと合わせて、現在設置を実施するという形で考えております。

議長（脇本茂紀君） 3番。

3番（井上美津子君） 続きまして、駐車場についてお尋ねします。

障害者の駐車場がわかりにくく、駐車してもいいのだろうかと迷ってしまって、一般の駐車場に駐車したら、段差があつて大変だったという声を聞きました。バリアフリーの観点からも、車いすに優しい駐車場であつてほしいと思いますが、お考えをお伺いいたします。

議長（脇本茂紀君） 観光交流室長、答弁。

観光交流室長（堀信正純君） 施設全体のバリアフリー対応ということでございますけれども、現在施設につきましては、入り口につきましても、施設の中、エレベーター等も設置しておりまして、一定にはバリアフリーにも対応したというような形の設置となっております。

また、障害者等への駐車場につきましても、国によりまして、進入口である消防屯所の壁面に案内表示を設置して、利用促進に努めているところでございます。よろしく願いいたします。

議長（脇本茂紀君） 3番。

3番（井上美津子君） 続きまして、売店の開店時間なんですけども、9時から17時、5時までとなっております。市役所と同じねとよく言われますけども、開店時間の見直しにつ

いてどう思われますか、お伺いいたします。

議長（脇本茂紀君） 観光交流室長、答弁。

観光交流室長（堀信正純君） 売店の利用時間の件でございますけれども、現在議員おっしゃられるとおり、9時から5時というような形になっておりますけれども、イベント等におきましても、この10月にはイベントで連携したことで、午後8時まで延長したというようなこともございまして、これからもさまざまな検証、営業時間の問題とか、今の定休日とかというようなところもございまして、そちらにつきましても検討していく中で、今後検討していきたいというふうに考えておりますので、よろしくお伺いいたします。

議長（脇本茂紀君） 3番。

3番（井上美津子君） ありがとうございます。

私も、道の駅に行かせていただいているんですけども、道の駅の利用者が、1階はレストラン効果で利用者が多いのですが、2階の観光情報コーナーや地域交流スペースの利用が少ないようですが、2階はどのような利用状況か、お伺いいたします。

議長（脇本茂紀君） 観光交流室長、答弁。

観光交流室長（堀信正純君） 2階の観光情報コーナー、地域交流スペースの利用状況でございますけれども、現在利用者、下の売店、レストランを利用されてる方につきまして、およそ約5%から10%程度の方が利用されてるというような状況になっております。これにつきましても、施設内の回遊性を高めるというようなところを工夫を課題整理していくことが必要であるというふうに考えているところであり、現在課題整理について検討を行っていることございまして、今後改善に努めてまいりたいというふうに考えておりますので、よろしくお伺いいたします。

議長（脇本茂紀君） 3番。

3番（井上美津子君） はい2階へたくさん上がってもらうように課題整理をされていってほしいと思います。

次に、観光情報コーナーですけども、展示してある商品についてお尋ねします。

展示してある商品は売り物ではないのですかと聞いていらっしゃる観光客の方をお見かけいたしました。今後、注文がとれるとか、売るとかが可能になるよう、企業への働きかけはされているのでしょうか、お伺いいたします。

議長（脇本茂紀君） 観光交流室長、答弁。

観光交流室長（堀信正純君） 観光情報コーナーにおける展示物等の販売はできるかどうかという御質問ではないかと思えますけれども、現在御指摘のとおり、展示しているものでありますとか、販売しているもの、こういうものがまじっているといいですか、あるということでございます。これらの展示品につきましては、販売等ができるように、企業等に現在も働きかけているところがございます、引き続き利用者のニーズにこたえられるように販売ができるような形で取り組みを進めてまいりたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。

議長（脇本茂紀君） 3番。

3番（井上美津子君） よろしくお願いたします。

続きまして、喫茶についてお尋ねいたします。

レストランのメニューは、食事のセットメニューのみで、コーヒー、紅茶など単品では提供されておられません。観光客の皆さんが、あちらこちら歩いて観光された後、道の駅に立ち寄ってちょっと一息したいというときに、缶コーヒーでは疲れもいやされないと思います。おもてなしの心の観点から、喫茶についてメニューの見直し等お考えがありましたら、お伺いたします。

議長（脇本茂紀君） 観光交流室長、答弁。

観光交流室長（堀信正純君） レストランにおける運営面の改善についての御質問かと思えます。

まず、メニューの見直しでありますとか、ティータイムの導入という形でございますけれども、これにつきましても、施設全体の課題整理を行っている中で、改善に向けた検討を行っているところがございます、今後進めてまいりたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。

議長（脇本茂紀君） 3番。

3番（井上美津子君） 早い時間に見直しをしていただいて、提供していただくとよいと思いますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、道の駅が町並み保存地区のゲートエリアとしての役割が観光インフォメーションの機能にあるとありますけれども、町並み保存地区に道の駅の波及効果があらわれていると思われませんか、お伺いたします。

議長（脇本茂紀君） 観光交流室長、答弁。

観光交流室長（堀信正純君） インフォメーション機能の充実につきましての道の駅オー

ブン後周辺施設などへの効果はどのようにあるかというような御質問でございます。

一例ではございますけれども、町並み保存地区内の文化4施設入館状況でございます。これについては、文化4施設、松阪邸、森川邸、歴史民俗資料館、光本邸の実態、今年度と昨年度の数値でございますけれども、平成21年度10月から1月までの利用者数が8,153人、平成22年度10月から1月までが1万4,433人と、前年度から6,280人の増加になっている状況でございます。このような状況を見ますと、道の駅のオープン後一定の効果、波及効果につながっているものというふうに考えておるところでございます。

議長（脇本茂紀君） 3番。

3番（井上美津子君） はい町並み保存地区への波及効果があるということがわかりました。ありがとうございます。

ほかの商店街とか、そういうところにも波及効果があることを期待しておりますけれども、いかがなものでしょうか、お伺いいたします。

議長（脇本茂紀君） 観光交流室長、答弁。

観光交流室長（堀信正純君） 駅前であるとか、他の商店街との連携という形になるかと思っておりますけれども、今後もその地域のイベント等連携をする中で、道の駅からそういう周辺地域へ波及効果につながるよう連携する中で地域の活性化につなげてまいりたいというふうに考えておりますので、よろしくお伺いいたします。

議長（脇本茂紀君） 3番。

3番（井上美津子君） ありがとうございます。

野菜の地元生産者の出荷についてお尋ねします。

午前中に行かないと、野菜はなくなっていることが多いとお聞きいたします。また、高齢者の方が生産され、出荷されている商品が多いとも聞いております。搬入の仕方や商品の陳列の仕方はどうなってますか、お伺いいたします。

議長（脇本茂紀君） 観光交流室長、答弁。

観光交流室長（堀信正純君） 商品の搬入につきましては、生産者が道の駅の施設へ直接搬入していただくという形になっております。また、野菜等の生鮮商品の提供につきましては、現在十分な安定した商品の提供にはつながっていないということもございます。今後におきましても、生産者の働きかけ、あるいはJAなど関係団体との緊密な連携によりまして、商品の確保や充実のほうに努めてまいりたいというふうに考えておりますので、

よろしくお願ひいたします。

議長（脇本茂紀君） 3番。

3番（井上美津子君） 済みません。商品の陳列の仕方のほうは、どうなってますでしょうか。

議長（脇本茂紀君） 観光交流室長、答弁。

観光交流室長（堀信正純君） 商品の陳列につきましては、現在施設全体の課題整理をする中で、議員御指摘の点も踏まえて、検討をしているところでございます。よろしくお願ひいたします。

議長（脇本茂紀君） 3番。

3番（井上美津子君） 陳列につきましては、レイアウト等ありますので、また早急に対処していただきたいと思ひます。

野菜等安定した商品が提供されるように、また売れる品物をつくるという観点から、関係機関とかと連携をとっていらっしゃるようですけども、後継者を育てるという観点では、どのようなお考えをお持ちでしょうか、お願ひいたします。

議長（脇本茂紀君） 産業振興課長、答弁。

産業振興課長（中川隆二君） 失礼いたします。

担い手農業、農林水産業の担い手育成といった観点の御質問かと思ひます。

これにつきましては、昨日も議会のほうから御指摘をいただいたように、今現在農林水産業、1次産業の後継者、担い手不足といったような観点で取り組みが十分になされていないというような状況もござひます中で一定には、特に農業なんかは大規模化、効率化に向けた取り組みの中にある中で、例えば今回の道の駅の御質問の中である出品者の方々、こちらの中には、農業外参入をされてる企業の農業法人の方もいらっしゃいますけれども、やはり個人の地元の農業者の方々に定期的に定量的に商品を出していただくためには、そういった後継者をつくっていく政策に取り組まなければいけないというふうに考えております。具体的には、今現在出品をしていただいているの方々、こちらの方々が、すごく協力的な御意見をいただいております、実際に我々のオープン前の出品説明会の説明不足もあったのかもしれませんが、朝出して、夕方には、余ったら持って帰りなさいというふうに御理解をされた生産者の方が多かったと、だから課長もう一度出品説明会を十分にしろというふうなお声もいただいております。そうした中で、我々農林水産、農政担当のほうは、今後地域へ出向くことも踏まえて、いろいろと考えていきたい。

それとあとは、きのうも御指摘をいただきました朝市の皆さん、こちらのほうは、今、週1、週2で手いっぱいというようなことでのお話の中で、会として出品をしていただけない状況もございますけども、その会員の皆さんの中からは、個人で出品をいただいている状況もございます。そうした取り組みももう一度改めて地元と連携といいますか、お話をする中で、御理解をいただきながら、特に生鮮物の出品の充実につなげていければというふうに考えておりますので、御理解のほどよろしくお願いいたします。

議長（脇本茂紀君） 3番。

3番（井上美津子君） ありがとうございます。

なるべく早くお話し合いをして、たくさんの商品が並ぶようにしていただきたいと思えます。

続きまして、地域ブランド開発についてお尋ねいたします。

現在、商品開発の取り組みの進捗状況をお伺いいたします。

議長（脇本茂紀君） 産業振興課長、答弁。

産業振興課長（中川隆二君） 失礼します。

地域ブランド開発の現在の進捗状況ということでございますけども、この地域ブランド開発事業につきましては、国のふるさと雇用再生特別交付金と、これを活用しまして、広島県が造成しております雇用創出基金ということで、主には人を雇って、そこで我々としては継続的な産業創出、雇用創出というようなことで、地域ブランドを開発して、それを新たな産業にしていこうというようなことで取り組みを、平成21年度から23年度までの3年間、基金を活用して行っている事業でございます。

これまでの取り組みとしましては、これまでも御答弁申し上げておりますように、現在は竹原の知名度を上げるための素材そのものの価値を高めるために、小吹産のタケノコ、これを東京築地市場へ出荷をするという、これがブランド化事業ということになりました。これを皮切りに、その素材を活用した加工食品、料理のメニューなどを開発するという取り組みをしておりまして、この2月の上旬に東京で開催をされましたイベントにおきまして、会議所のほうが商品開発試作品をつくられましたタケノコピクルスであるとか、タケノコカレーというのを出品した中で、タケノコピクルスが加工品の大賞を受賞したというようなことになっております。

関連をしまして、今現在メニュー開発のほうで、竹原たけめしということで、やはりタケノコを使ったメニュー開発をしておりまして、こちらは今現在市内の飲食店3店舗で

ございますけども、3月28日に調印式を行いまして、3月29日からデビューというように、これも地域ブランド開発の関連事業というような位置づけとしております。

この後の产品开发でございますけども、試作品の開発までは行きましたけども、これから製造体制であるとか、販路開拓といったような課題がございますので、23年度におきまして、こういったところの課題を整理する中で、産業創出、雇用の場の確保といったものにつなげていければというふうに考えております。

以上でございます。

議長（脇本茂紀君） 3番。

3番（井上美津子君） 道の駅にしか売っていないもの、地域ブランドっていうものがたくさんできることを期待しておりますが、今ブームのB級グルメに対してはどう思われますか、お考えをお伺いいたします。

議長（脇本茂紀君） 産業振興課長、答弁。

産業振興課長（中川隆二君） B級グルメということでございますけども、一定には市内の飲食関係者の方からそういったお声が上がってるということで認識をしておりますけども、まずB級グルメという、これは一般的な定義でございますけども、B級グルメというのは、もともと地元で定着しているものと、私が今先ほどの御質問で答弁しました竹原たけめしというのは、新御当地グルメというような整理をしております、いずれも御当地グルメには変わりはないんですけども、今現在B-1グランプリとか、そういった形でやってるB級グルメというのは、もともと地元で既に定着してる料理、それを全国展開しようということでございまして、これは私見といいますか、今現在竹原にB級グルメと呼ばれるようなものについては、私はないのではないかなという中で、我々は新御当地グルメというふうに、地域の食材をちゃんと使おうという定義の中でメニュー開発をするということで、市も支援をしていくというようなことで取り組みを進めております。

特に、B級グルメ、御当地グルメというふうなことでのこだわりではなくて、いずれにしましても、食を切り口といいますか、キーワードにしたまちづくりには間違いないと思いますので、そういったもし竹原の中でB-1グランプリに出るぞというような、もし機運が高まるとか、そういった取り組みがあった場合も、やはり我々として食を生かしたまちづくりというようなことであれば、市としても支援をしていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

議長（脇本茂紀君） 3番。

3番（井上美津子君） はいありがとうございます。

なるべく新御当地グルメという形の竹原たけめしですかね、それがおいしくて、皆さんに早く提供していただいて、たくさん食べに来てもらうということが必要でないかと思えます。

次に、答弁書に、心のこもったおもてなしについて、私は少し理解しにくいので、いま一度どういうことをするのか、お伺いいたします。

議長（脇本茂紀君） 観光交流室長、答弁。

観光交流室長（堀信正純君） 失礼いたします。

心のこもったおもてなしとは具体的にはどのようなことであるのかという御質問でございます。

心のこもったおもてなしとは、来客、観光客、そういう方の立場になって考えて、来客の希望されるものをいかに提供できるかという対応なり気持ちが心のこもったおもてなしになるのではないかというふうに考えておるところでございます。

以上でございます。

議長（脇本茂紀君） 3番。

3番（井上美津子君） ありがとうございます。

また、答弁書に、観光協会など、関係団体と連携して、啓発活動の推進や研修を通じ接遇の向上とありますが、研修の対象者はどんな方でしょうか、お伺いいたします。

議長（脇本茂紀君） 観光交流室長、答弁。

観光交流室長（堀信正純君） 研修の対象者になりますけれども、これは道の駅として働いている関係者、従業員というふうな形で研修を実施するというところでございます。

議長（脇本茂紀君） 3番。

3番（井上美津子君） その研修は、もう既にされていますでしょうか、それともまだやられてない。どういう形なんでしょうか、お尋ねいたします。

議長（脇本茂紀君） 観光交流室長、答弁。

観光交流室長（堀信正純君） 売店等、レストランにおきまして、一定にはオープン前におきまして事前研修等を実施しております。ただ、議員御指摘の点もあるかと思えます。

今の現状ですね、売店などで新しい商品等が入ったときの対応でありますとか、苦情に対する対応等につきましては、引き続き内部においても十分把握なり、研修等していくと

もに、外部の研修についても今後検討していく必要があるというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

議長（脇本茂紀君） 3番。

3番（井上美津子君） 道の駅の来訪者に対しまして、やっぱり売店とかの従業員さんたちのやっぱり接遇というか、おもてなしの心の観点からも、十分に研修を積まれまして、対応をしていただきたいと思います。

最後になりますけども、今インターネットの時代です。道の駅に初めて訪れる方は、ブログや書き込みを見て、事前に調べて行く方がふえていると思います。多くの来訪者がネットに「また行きたいです」と書き込んでいただけるようにするためにも、今後の道の駅たけはらのあり方について、市長への答弁を求めて、私の一般質問を終わります。

議長（脇本茂紀君） 副市長、答弁。

副市長（三好晶伸君） 道の駅たけはらの運営あるいは活用策などについていろいろ御意見、また御指摘をいただきました。

今の運営、活用策等についてのことにつきまして、先ほど来申し上げておりますように、24年度から改めて法人格を持った指定管理者に移行するというので今進めております。それに向けて、現在の直営期間の中でいろんなシミュレーションも行いながら進めておりますので、ぜひ先ほど来の御意見等については参考にさせていただきたいというふうに思います。

それで、道の駅たけはらの今後のあり方についてという今御質問でございます。

今年度、市長のほうより平成23年度の予算編成の際申し上げました、予算編成については大きくは、子育て支援、あるいは高齢化対策、安全・安心な暮らしづくり、そして地域振興策と、この4点について重要施策として位置づけております。積極的に推進することとしておりますが、その中で道の駅たけはらについては、地域振興ということで位置づけをさせていただいております。

平成20年10月から着手をしてまいりました道の駅については、市内の産業を支える役割と地域に活力を与える大きな可能性を持って、昨年10月にオープンをいたしました。この道の駅と町並み保存地区の一体的な魅力づくりを行い、交流人口の拡大を推し進めるなど、産業振興を図ることは元気で住みよい竹原市づくりに欠かすことができない取り組みであるということとともに、広島県の瀬戸内の海の道構想に呼応した、エリア全体の魅力アップにつながる取り組みになるものと考えております。その旨、御理解をいただ

きたいと思います。

(「インターネットを活用したPRをなさいとようてんじゃろう、言うてあけんないかんじゃろう、要らんこと言わんでも」と呼ぶ者あり)

議長(脇本茂紀君) 答弁漏れのようなので、再質問を許します。

(「答弁漏れ、答弁漏れじゃない」と呼ぶ者あり)

総務部長、答弁。

総務部長(今榮敏彦君) 濟いません。いわゆる情報発信にかかわって、インターネット、ブログ等の書き込みは、今昨今大変な反響といたしますか、大きな流れを生んでいるということでございます。

竹原市はイメージアップ戦略ということで、新年度、今年度も取り組んでおりますものの、新たに道の駅、またアニメ「たまゆら」等を活用して発信をしていく計画を考えているところでございます。この点につきましても、積極的な活用を図って、よい効果があらわれるように取り組んでまいりたいというふうに考えております。どうぞよろしく願いいたします。

議長(脇本茂紀君) 以上をもって井上美津子さんの一般質問を終結いたします。

これをもって一般質問を終結いたします。

お諮りいたします。

予算特別委員会審査などのため、ただいまから3月17日の予算特別委員会審査終了まで休会にいたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長(脇本茂紀君) 御異議なしと認めます。よって、ただいまから3月17日の予算特別委員会審査終了まで休会とすることに決しました。

3月17日予算特別委員会審査が終了次第、会議を再開することとし、本日はこれにて散会いたします。

午前10時48分 散会